

会 議 録

会議名	平成 25 年度第 4 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 26 年 2 月 26 日（水）午後 6 時 30 分～8 時 15 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	小野一之、柿崎博孝、佐藤栄子、佐藤一、藤岡換太郎、本田怜子、吉田幸子（50 音順）
	事務局	牛山清志こども科学館長、田島巨樹郷土資料館長（文化財課長）、森融こども科学館専門幹兼主査、戸井晴夫郷土資料館担当主査、木住野直彦郷土資料館担当主査
欠席者	大村のり子、田野倉宏和、山中幸生	
議 題	協議事項 1. コニカミノルタサイエンスドーム及び八王子市郷土資料館平成 25 年度 4～12 月期事業実績について 2. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ こども科学館事業実施状況（平成 25 年 4 月～平成 25 年 12 月） ・ 郷土資料館事業実績（平成 25 年 4 月～平成 25 年 12 月） 	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>コニカミノルタサイエンスドーム平成 25 年度 4 月～12 月期事業実績についてこども科学館森専門幹兼主査から説明。続いて、八王子市郷土資料館平成 25 年度 4 月～12 月期事業実績について木住野郷土資料館担当主査から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 ありがとうございました。両館とも簡潔明瞭に説明していただきましたけれど、事業実績報告としては珍しく‘入館者減’という言葉が聞こえてきました。しかし、理由については明瞭になっており、また、中身に関しては順調に進められていると思います。</p> <p> ご意見を出し合う前に、この前の大雪に関しまして、被害ですとか事業への影響やその対応についてお聞きしたいのですが。両館ともご説明いただけますか。</p> <p>牛山館長 こども科学館についてですが、被害は特にございませんでした。一番大きかったのは、大雪の関係でバスが止まり見学に来られない状況となったことです。また、駐車場は、利用できない状況になりまして、職員の手で少しずつ除雪を行いました。臨時休館はいたしませんでしたが、プラネタリウムも平日の様でした。</p> <p>田島館長 郷土資料館についてですが、雪は酷い状況でしたが、施設の被害はございませんでした。土曜日・日曜日は、職員が出勤しておりましたので、雪かきを行い、来館者用の導入路のほか駐車場車 3 台分のスペースの確保をし、営業いたしました。また、月曜日の休館日についても職員が出勤し、道の反対側の駐車場の雪かきを行い、車 10 台分のスペースを確保し、火曜日以降の営業に備えました。</p> <p> 一方、郷土資料館から離れますが、文化財課では、この外に博物館ではありませんが、2 つの施設を管理しております。ひとつは絹の道資料館、もうひとつは八王子城跡のガイダンス施設です。絹の道資料館の方は、15 日にバスは動いておりませんでしたし、電車からも遠いということで管理人が館に来ることができませんでした。従いまして、絹の道資料館は、急遽臨時休館にいたしました。ただ、翌日からは雪かきができておりましたので、16 日の日曜日は開館いたしました。しかしながら、史跡の絹の道に関しては、積雪量が大体 60～70 c m という状況で、今日も 30 c m 位雪が残っています。よっ</p>
-----------------------	--

	<p>て、散策に関しては、できない旨をホームページで情報提供しております。一方、八王子城跡ガイダンス施設についてですが、休館はいたしませんでした。管理人が近くに住んでいる方でしたので、雪かきをしながら開館をしておりました。高尾街道から八王子城跡に入る都道についても雪が酷い状況でしたが、地元の方の努力で自動車 1 台が通れるように除雪されておりました。現状では、八王子城跡ガイダンス施設から管理棟までは行くことができますが、八王子城跡については、駐車場の利用と八王子城跡の散策を停止とさせていただいております。八王子城跡には、雪が降った後すぐ行ってみましたが、積雪量が 1m を超えておりました。25 日火曜日に八王子城跡の測量をしなければならぬ仕事が入っておりまして、業者さんにブルドーザーを入れていただき、御主殿の滝までは歩いて行ける状態になっていますが、道もまだ危険なので散策停止解除をもう少し先にしようと考えております。なお、御主殿の滝から御主殿跡への導入路については、雪かきができておりませんで、現在でも積雪が 45～50 cm 位残っております。また、駐車場につきましても積雪が 30 cm 以上ございますので利用はできない状況です。</p> <p>小野会長 ありがとうございます。施設を持っていますと利用者の安全第一にするかあるいは、いつもと変わらないサービス提供をするか非常に迷うところで、今回は、想定していなかったことなので対応が難しかったことと思います。今後、大雪関連のマニュアル化というの必要かなと思います。この件に関して、委員さんからご意見ありますでしょうか。</p> <p>牛山館長 八王子では、電車もそうですが、バスが止まってしまいました。本当に経験が無いものでした。</p> <p> なお、こども科学館では、藤岡委員さんの講演会は予定どおり実施いたしました。</p> <p>小野会長 藤岡委員。</p> <p>藤岡委員 施設の評価を出す際、天災による入館者減・売上減を評価してもらわないといけないのではないかと思います。</p> <p>小野会長 では、事業実績の議題に移りたいと思います。</p> <p> 佐藤一委員。</p> <p>佐藤一委員 一点目として、こども科学館・郷土資料館の入館者の単位</p>
--	--

標記が‘名’と‘人’にばらつきがあり統一すべきだと思います。

二点目として、こども科学館のイベントの中に‘講演会’、‘出前講座’と‘博物館実習’が入っていますが、イベントの内容と性質が異なるものなので、郷土資料館のように表記の仕方を統一することができないでしょうか。

また、講演会の表記の際、講演会のテーマと講演者の名前を入れておくということが大事なことではないでしょうか。つまり、次年度の講演会を考える際、必要な情報となるのではないかと思うからです。

三点目として、こども科学館事業実施状況の中の入館者71,079名は、‘3.プラネタリウム番組・観覧者数の合計’と‘4.講座等実施状況の合計’を足した数値になるということでしょうか。そうすると、71,079名にならないので、そのところを教えてくださいたいのですが。

四点目として、郷土資料館の方ですが、‘3.事業の開催状況’の‘講座(ガイドボランティア)’の参加者合計333名はどこから出てきたのかご説明願いたい。

また、‘2.特別利用’の人数の合計が698人になり総数と合わないのと、郷土資料館入館者数推移の説明中、グラフィックと凡例双方に年度の説明がありますが、これはひとつで良いのではないかと思います。

小野会長 牛山館長。

牛山館長 表記についてですが、‘名’ではなく‘人’に統一したいと思います。

また、テーマ別について、確かに博物館実習は合わないと思いますので、分類を分けるようにいたします。それから、講演会につきましては、内容が分かるように記載したいと思います。

あと、人数の数え方について森の方からご説明いたします。
森専門幹兼主査 ‘3.プラネタリウム番組・観覧者数’と‘4.講座等実施状況’の数とは連動しておりません。入館者の中でプラネタリウムをご覧になった方という人数になっておりますので、プラネタリウム番組・観覧者数と講座等実施状況の数を足しても入館者数になりません。と言いますのは、プラネタリウムをご覧になられた方が講座に参加される人もおりますし、

プラネタリウムのみご覧になれる方、入館だけしてプラネタリウムを見ない講座にも参加しないという方、プラネタリウムを1日2回見る方もいらっしゃるからです。

佐藤一委員 そうすると、書き方の問題で、プラネタリウム番組・閲覧者数のところに‘重複閲覧有’等記載しておいた方が良いのではないのでしょうか。

牛山館長 ‘重複閲覧有’と記載いたします。

木住野主査 郷土資料館についてのご質問につきましてご説明させていただきます。

まず、ガイドボランティア講座参加者合計 333 人は、ガイドボランティアによる紙芝居「八王子空襲」の上演会参加者の 44 人、ガイドボランティアによる「空襲体験を語る会」の参加者 25 人、ガイドボランティアによる紙芝居上演会・出前の参加者 264 人を足した数字となっております。‘紙芝居上演会参加者数’、‘出前：紙芝居実演会参加者数’、‘平和展協力参加者数’は、ガイドボランティアによる紙芝居上演会・出前の内訳となっております。

また、特別利用についてですが、図書閲覧（歴史相談）人数、総合学習の受け入れ人数、職場体験の受け入れ人数は、入館者数の内数となっております。つまり、入館者の中で、図書閲覧者が 181 人、総合学習者が 114 人、職場体験者が 23 人いたということになります。なお、出前講座につきましては、外部の団体・グループより講師派遣依頼を受け出張して講座を開催するもので、入館者数に入っておりません。

また、ご指摘のありました郷土資料館入館者数推移の中の年度の説明はひとつにさせていただきます。

佐藤一委員 ボランティアの講座の内訳の表記方法として、カッコ書き等にしてみてはいかがでしょうか。

木住野主査 ボランティアの講座の内訳箇所については、カッコ書き等分かるように表記したいと思います。

小野会長 ありがとうございます。分かり易い表記をお願いします。郷土資料館の場合は、研究紀要に年報形式で講演者も含め詳細に書かれておりますが、こども科学館の場合はこういった印刷物が無いので公にこういった形でされるのでしょうか。

牛山館長 教育委員会の報告書や決算書類に掲載させていただいております。こども科学館では、研究紀要を発行していないので、

	<p>一般の方に周知されていないのは事実です。</p>
小野会長	<p>その辺に差が出てしまって、文書の開示請求等の手続きを経ないとこういった中身が分からないということですね。今直ぐには難しいかもしれませんが、今後、公開すべきことかと思えます。館によってはホームページによって分かるところもあるようなのでご検討ください。</p>
	<p>藤岡委員。</p>
藤岡委員	<p>こども科学館のイベント参加者数が 51.5%増となっておりますが、‘巨大シャボン玉で遊ぼう’とか‘大型鉄道模型に乗ろう’の参加者数が多いように思うのですが、これらが増の原因ですよ。特別に増えた理由は为什么呢。</p>
牛山館長	<p>こども科学館のイベントとして、小さいお子さんが楽しめるものがなかなか無いものですから、‘シャボン玉で遊ぼう’の開催日数を増やしたところ、来館者増に繋がったのではないかと考えております。</p>
藤岡委員	<p>増減表で見ると、どの月に増えたというのは示されてないですよ。</p>
牛山館長	<p>そうですね。実は、夏、有料入館者が減ってしまうので、無料イベントに力を入れて入館者増を図っているところがございます。よって、夏期に関しては、昨年よりも入館者が多くなった形となっております。</p>
藤岡委員	<p>8月は多いですよ。</p>
牛山館長	<p>‘シャボン玉で遊ぼう’は、8月に実施しております。5・6月の入館者の落ち込みを回復したいということで意図的にイベントを増やしたところがございます。</p>
藤岡委員	<p>郷土資料館に関して、空襲関係講座が続いて実施しておりますが、参加者は減っていますか横ばいでしょうか。</p>
戸井主査	<p>横ばいです。</p>
藤岡委員	<p>空襲関係の講座を聞いている年齢層は。</p>
木住野主査	<p>空襲を体験された世代から小学生まで幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。</p>
藤岡委員	<p>こども科学館で空襲体験の話聞かせるのも良いのではないのでしょうか。郷土資料館に来られる人は、どちらかというと年齢層の高い方が多く、この話をできるだけ多くの子供達に聞いてもらいたいです。</p>
小野会長	<p>吉田委員。</p>

	<p>吉田委員 小学校では1年生から6年生まで国語の教材で戦争に関する話を扱っています。特に3年生以上から社会科が戦争について調べ学習をしたり、自由研究に取り組んだりします。空襲関係講座をこども科学館で実施していただくことは良いことだと思います。</p> <p>また、八王子かるた関連講座についてですが、かるたは、小学校2・3年生からスタートするわけですし、プラネタリウムに集まっている子供を対象にしてみると、もっとかるたの方に人が戻ってくるのではないかと思います。</p> <p>小野会長 郷土資料館では、毎年夏は八王子空襲のテーマを取り上げています。こういった重いテーマを継続して実施して行くことは非常に大切なことだと思います。展示にしても、同じようにして違うといった工夫をされているようで非常に良いものだと思います。そういった中で、こども科学館で実施するという一工夫も今後は必要になるのではないかと感じています。ご検討ください。</p> <p>藤岡委員。</p> <p>藤岡委員 講座についてですが、津波、地震、気象災害や放射能等の災害関係の話を入れて、子供達の教育に使うというのが良いのではないかと思います。昔の小学校国語の教科書では、‘稲むらの火’という物語を掲載し、防災教材として活用されました。今、そのような教材は余り無いですね。これから起きそうな災害についての教育を先駆けて実施してみてもいいのではないでしょうか。</p> <p>小野会長 佐藤栄子委員。</p> <p>佐藤栄委員 戦争・空襲体験の話をした後、入館者数だけで結論を出すのもひとつですが、講座が終わった後、アンケート等で参加者の感じたものが出て来ると良いのではないかと思います。アンケート等実施しているのでしょうか。</p> <p>戸井主査 講座によってアンケートを実施しているものと実施していないものがあります。</p> <p>佐藤栄委員 入館者数で現れないものがあったとしても良いのではないかと思います。</p> <p>小野会長 柿崎委員。</p> <p>柿崎委員 こども科学館に関して、講座等実施状況の中にこども科学館ボランティアグループの名前が入っていますが、これにつ</p>
--	--

	<p>いてご説明願います。</p> <p>牛山館長 ‘実験！マイナス 196℃の世界’は、こども科学館ボランティアグループで考えていただいた企画です。</p> <p>柿崎委員 ボランティアの方の数は増えていますか。</p> <p>牛山館長 増えておりません。</p> <p>柿崎委員 今後、ボランティアの方々をどう育てるといふか、どう一緒に進めて行くか考えをお持ちでしたら聞かせてもらいたいのですが。</p> <p>牛山館長 現在、こども科学館では、今以上の展開はありません。こども科学館が、ボランティアの方たちをまとめるのではなく、現状では、個別に活動していただいている状況になっております。</p> <p>柿崎委員 もっと館とボランティアの方が密接に関わって活動の場というものが広がって行けば良いのではないかとということで発言させていただきました。今後、その辺を考慮していただけたらと思います。</p> <p>牛山館長 こども科学館のボランティアにつきましては、先程ご説明したとおりですが、大学や高校のボランティア活動は活発に行っていただいております。ボランティアさんが行いたいことを一緒に実施するようにしております。</p> <p>柿崎委員 郷土資料館のボランティアさんの人数は増えていないですか。</p> <p>戸井主査 ボランティア活動が 10 年以上経ちますので、年齢的な問題やご家庭の事情等で若干ですが減りつつありますが、若い人も入ってきております。ボランティアさんの方から増員して欲しい等の要望が無ければ新規に募集はしてしておりません。</p> <p>また、それぞれの活動も長く続いておりまして、‘紙芝居会’は、3 作目が完成し 4 作目は何にしようかと考えているところです。また、北条氏照関連の文献を読み、同氏の年表を作成している‘氏照年表を作る会’は、天正期前までまとめられそうなところまで来ています。また、形にならないことでも、千人同心が日光勤番の際、辿ってきた道を少しずつ歩くという試みをされているボランティアさんもいらっしゃいます。辿り着いたら日記のようなものをまとめてもらえばと考えております。</p> <p>小野会長 本田委員。</p>
--	---

	<p>本田委員 郷土資料館の特別展「八王子の産業ことはじめ」を拝見させていただきましたが、上野の博覧会から始まる展示で、日本全体の歴史から八王子の産業へと繋がりがあって良いものでした。その中で思ったのが、いろいろな昔の写真が貼ってありましたが、それが現在どうなっているのか、全ての写真について無理としても、現在の写真や地図も貼るなどした方が見る人にとってもっと繋がりを感じられるのではないかと思います。</p> <p>また、入館者数を見ると、お子さんが4分の1しか来ていないことが私にとって残念なことです。子供の入館者増の為に説明書きを大人用と子供用を分けてみたらどうでしょうか。子供用の説明書きに‘ゆるキャラ’を使ってみるのも良いのではないのでしょうか。</p> <p>それから、特別展示室にアンケート用紙が設置してありましたが、展示を見に来た方がどのような感想をお持ちになったのか私も知りたいと思っていますところがありまして、アンケートの感想を知ることができたらと考えております。</p> <p>戸井主査 展示図録を見ていただくと、解説にかなりのページを費やしており、地図や年表は掲載しておりません。これだけの解説をそれぞれの展示物に付けるわけには行かないので、なるべく展示図録を購入していただき理解していただきたいと思います。また、子供が分かるような展示というのはなかなか難しいところでいつも悩むところですが、この展示をベースにして、これを2階のこどもれきし展示室に持って行くなど検討したいと思います。</p> <p>また、アンケート結果につきましては、会期が終わりましたら集計いたしますのでご報告できるかと思います。</p> <p>小野会長 佐藤栄子委員。</p> <p>佐藤栄委員 南大沢の図書館に昔の風景の写真と平成の時代の写真を並べて掲載している本がありました。</p> <p>小野会長 今、特別展に関する意見がありました。それについてご意見はありますか。</p> <p>藤岡委員。</p> <p>藤岡委員 今回の展示は、子供向けの展示として考えてないと思います。子供向けに行う展示は、テーマを選ばなくてはならないと思います。歴史ものの講座を博物館で子供向けに行う等や</p>
--	---

	<p>られたら良いと思います。今回の展示は、これで良いと思います。</p>
戸井主査	<p>今、小学校 3 年生の団体見学が来ますと、2 階のこども歴史展示室だけではなく、主に大人を対象とした 1 階の第 1 展示場や特別展示室を一緒に見学をされております。分からない部分は、先生が解説をしたり、ボランティアさんが聞かれれば回答する形にしております。</p>
藤岡委員	<p>特別展を実施する回数の決定は、予算によるものなのかネタ的な問題のいずれによるものなのでしょう。</p>
田島館長	<p>今年度は、「大久保長安と八王子」展を実施しましたが、それが時間と労力、そして経費の面で負担となりまして、特別展を 3 回実施できませんでした。</p>
藤岡委員	<p>過去に実施した展示を子供向けにやってみるのも良いのではないのでしょうか。</p>
小野会長	<p>展示を子供向けに分かるようにするという事は、それによって大人が興味を引いてもらえます。もとより地域の博物館である以上、専門家向けの展示会などあり得ない訳ですから、その辺をもう少し融通をきかせて幅広い分かり易い展示をもう少しの方が良いかと思います。敢えて変な言い方をすれば、ここ 30 年中身は違うけれど同じ展示をしていたと思います。どこの博物館も展示の工夫を進めているところですから、工夫というものをもう一步踏み込んで行っていただきたいと考えています。</p>
	<p>本田委員。</p>
本田委員	<p>今、大人用の解説と子供用の解説の話をさせていただきました。私は、入間市の博物館に特別展を見に 2 回程行かせていただき、いずれの展示でも大人用の解説と子供用の解説がありました。私は、子供用の解説を見ながら見学をした経緯がありましたので、この発言をさせていただきました。</p>
小野会長	<p>吉田委員。</p>
吉田委員	<p>展示を見に来ていて、大人も子供も「何？」と思ったことから始まるわけです。だから、どこに目が行くか等そういう目を育てて行くことが大事なことです。こども科学館の前で走り回っている子供が、突然角度を変えてそこへ寄って行く時等本当にドキドキしてしまいます。何かを見つけたんだと思い、後をついて行って、聞こえないふりをして聞いている</p>

ことが本当に楽しいです。そういう展示、文字で訴えるよりも物で訴える展示。それも展示の仕方、照明のあて方等見えない隠し味が大事なものであると思います

金環日食がダントツで良かったのは、皆で共有できたことです。今年、アイソン彗星が見られる日に名古屋のプラネタリウムを見に行きました。ここではどんな取り組みをしているのかと思いましたが、「アイソン彗星が見られる時期ですよ。」という話がちらっと入っただけでした。詳しく知りたい方はホームページを見てくださいというものでした。次の日、アイソン彗星が消滅してしまったということで、何をやるのか知りたくもう一日行ってみると、「残念ながら見ることはできませんでした。」ということをしていました。でも、こども科学館は違いますよね。前の日に講座があつて、もしかしたら見られないかもしれない、もしかしたらすぐく見られるようになるかもしれない、八王子の土地でアイソン彗星を見とすればこうなるかもしれないということで、プラネタリウムの人と一緒にワクワクしていました。地域の人達と一緒にワクワクできるようなこども科学館であったり、郷土資料館であったりでなくてはならないのではないかと思います。だからこそ、金環日食をあれだけの人達が感動したのではないかと思います。ですから、地域の中でこんなものがあるんだというふうにして、偉そうに説明のではなく、同じ目線で、子供達と一緒にまた知っている人も知らない人も「ああなんだね。こうなんだね。」という場が持てるような講演会にして欲しいと思います。来ている人も感想を話したいのです。話をしたいので話す場を与えながら、それを吸い上げて説明して行くような講演会というのを工夫して行かなければならないと思います。それで、キラッと光る何かが見つかれば、人生の中でも大切なものになるのではないかと考えております。そういう点で、八王子のプラネタリウムはとても良いと思います。ただ、そういうところをもっとホームページでアピールした方が良いのではないかと思います。また、郷土資料館は、資料がこれだけ集まっているということ自慢する部分が足りないのではないかと思います。私も学校に勤めている時に学校評議委員の人に「もっと自慢なさいよ。」と言われなんだか照れ臭かったり、こうあつて欲しい

い、こうあって欲しいという理想ばかりを追ってしまうと自分の良いところを自慢することが難しかった記憶があります。ここで、自慢するという作戦に切り替えた方が良いのではないのでしょうか。人数で物理的なものはつきりするかもしれませんが、そうではなく、心情的に、こういうものを私達は地域に期待してこういう企画を立てる。郷土資料館でも一生懸命資料を作ってくださっていますが、来館している高齢者等が所蔵している資料をどう保存して行ったら良いのか、自分達が元気なうちに何かしなければならぬと思っている方が多いので、資料保存について地域の人に声を掛けた方が良いのではないかと思います。

小野会長 藤岡委員。

藤岡委員 名古屋のプラネタリウムの話が出ましたが、それは特別で真似をするのは難しいところがありますが、私がお勧めしたいのは、JAMSTEC の一般公開の日に行き、ノウハウを学ばれたら良いのではないかと思います。

また、八王子は大学が沢山ありますので、大学生をボランティア等で使うというのが良いかと思います。

郷土資料館というのは、古めかしいものを実施するのでしょうけど、中身をもう少し新しく考えた方が良いのではないかと思います。固いものを出さないと自分のところの威厳が保てないと思うのではなく、思いっきり柔らかくして分かり易くした方が良いのではないかと思います。例えば、子供向けの歴史の本を作ってみるとか、あまり厳密に資料に基づいて何かやらないといけないというのをもう少し崩して柔らかくして行くのもひとつかと思えます。

小野会長 佐藤一委員。

佐藤一委員 こども科学館の光学・電子顕微鏡についてですが、通常の写真は撮れますか。

森専門幹兼主査 データとしてそのままコンピューターに取り込めます。

佐藤一委員 例えば、八王子の繊維・織物の拡大図ですとか、植物の葉脈の類のものを光学・電子顕微鏡で撮っておいて、その素材を各学校に紹介してみたらどうでしょうか。そうすると、学校の方も「こども科学館はこういうことができるのか。」「こんなことはできない？」といった質問が出てくるのではない

	<p>でしょうか。材料を提供しなければ、相手は分からないですよね。</p>
藤岡委員	<p>人の問題です。光学・電子顕微鏡に人が付いていることはできないと思います。それを実施するには、大学生に手伝ってもらわなければならないのではないかと思います。</p>
牛山館長	<p>現在、こども科学館では、光学・電子顕微鏡をこなしかれる体制となっております。</p>
小野会長	<p>プラネタリウムに関しては、リニューアルの賞味期限がそろそろ終わる頃です。東大和市立郷土博物館が別な形でリニューアルし、多摩六都科学館は 20 周年で大々的なイベントを実施しているようです。これで、府中市郷土の森博物館でもリニューアルしてしまったら、出遅れてしまいますので、府中市郷土の森博物館がリニューアルしないうちに新しい展開を是非検討していただければと思います。</p> <p>次に、その他事項について事務局から何かありますか。</p>
	<p>田島館長。</p>
田島館長	<p>新聞報道等でご存知かとは思いますが、2 月に東京都の文化財保護審議会が開かれまして、昭和 39 年に中央自動車道八王子インターチェンジの工事に伴って発掘された宇津木向原遺跡の方形周溝墓から出土された土器類が東京都の文化財指定を受けることになりそうです。何故ここでという話になりますが、実は方形周溝墓というのは、命名が宇津木向原遺跡の発見が根拠になりました。国学院大学の大場磐雄教授が命名をして発表されました。ここで、命名してから 50 年が経つということで、それを契機として東京都がその出土品を指定するということになるそうです。結果は 2 月の末日に東京都から連絡が来る予定ですが、新聞でも文化財として指定される予定と書かれていましたのでご報告をさせていただきます。また、郷土資料館では、50 周年となる平成 26 年度に何らかのアクションを起こして行きたいと思います。以上でございます。</p>
小野会長	<p>では、他に無いようでしたら、平成 25 年度第 4 回八王子市博物館協議会を終了させていただきます。有難うございました。</p>

